

トビロウンカの飛来状況及び適期防除について

令和3年6月末

J A 阿蘇 小国郷営農センター、阿蘇農業普及・振興課

●トビロウンカの飛来状況

昨年は「坪枯れ」等の被害を引き起こすトビロウンカの飛来が過去10年中最も早く、5月3日に初飛来を確認されました。本年はまだ確認されていませんが九州の他県では確認されており今後も梅雨時期を中心に海外から断続的に飛来すると予想されますので、飛来情報やほ場内の密度を定期的に把握し、適期防除を行いましょ。

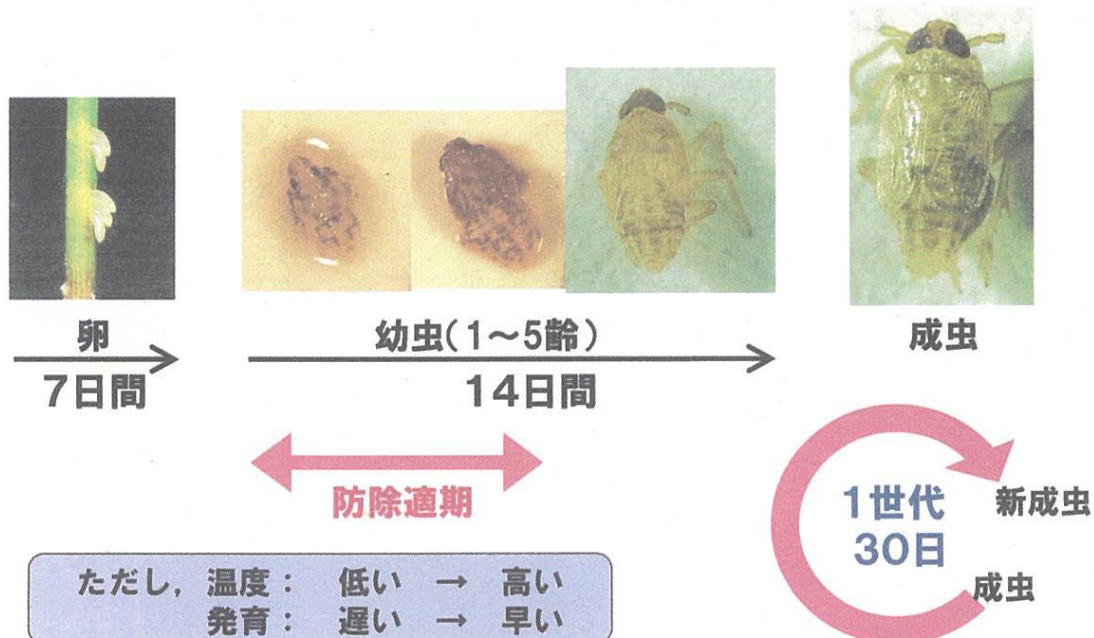
ウンカ類の飛来情報を病害虫防除所ホームページ等で確認し、適期防除に努めましょ。

※病害虫防除所ホームページ参照：<http://www.jpjn.ne.jp/kumamoto/data.html>

●防除適期

- トビロウンカの防除適期は若齢幼虫期です。できるだけ、払落し調査などにより発生状況を確認し、卵からふ化してすぐの時期を狙いましょ。
- 苗箱施用剤を使用している人でも、残効が切れてくる頃に本田防除を実施し、予防しましょ。また、成幼虫数が要防除密度を超える場合は防除を行いましょ。
(要防除密度 本田初期：10頭/100株、7月下旬～8月上旬：20頭/100株)
- 使用する剤型により、即効性や効果の出方が違うため、使用方法を確認してから散布してください。

トビロウンカが成虫になるまで



本田防除時期の目安

移植時期	散布時期（1回目）	散布時期（2回目）
5月上旬～中旬	7月下旬	発生状況に応じ、 適期散布
5月下旬	8月上旬	

●防除農薬●

本田防除剤 : アルバリン 粒剤 (3 kg)

使用量 : 1反当たり 3 kg (1袋)

使用方法 : 湛水状態 (3 cm程度) で田面に均一に散布。

散布後は、4～5日間湛水状態を保ち、散布後7日間は

落水やかけ流しをしないで下さい。

使用回数 : 3回以内 (収穫7日前まで)

散布時期 : 上記目安表参照

●注意点

- トビイロウンカに対してはイミダクロプリド (商品名: アドマイヤー) 等の薬剤で効果が低い状態が続いています。感受性低下した箱施薬剤を使用しているほ場や箱施薬剤を使用していないほ場では、ほ場を確認しトビイロウンカの発生に注意しましょう。

※病害虫防除所ホームページ感受性検定結果を参照:

http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H31/yosatu/200304gi_jyutu.pdf

- トビイロウンカは、水稻の株元近くに寄生しているため、粉剤及び液剤は、株元に付着するように散布しましょう。
- 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では、多発する傾向があるので注意しましょう。

出典: 病害虫発生予察情報第3号 (6月予報)、生産環境研究所病害虫研究室「トビイロウンカの発生生態と防除」より一部抜粋